

九州ネット

2015
1月23日

長崎ちゃんぽんラウンド

長崎県開催 報告書

H27.1.23(Sat) セントヒル長崎

今年は、オーストラリアから講師を迎え、国際色豊かで“ちゃんぽん”ラウンドらしい研修会となりました。

1 トピックス：「オーストラリアの健康教育の現在」

講師：クィーンズランド大学(オーストラリア) Louise McCuaig (ルイズ・マックウエイグ) 博士

オーストラリアの体育教育・保健教育について、オーストラリアの現状と今後の方向性について、貴重なお話をいただきました。日本の現状とも良く似ていて、大変参考になるお話でした。(詳しくは別紙)



2 意見交換「保健体育に関する問題について話し合おう」

参加者からいただいた質問について、班ごとに協議し、解決策を考えました。参加者からの質問は、「球技で楽しさや成功体験を味わえる簡易ゲームや練習方法は?」「体育理論への関心を高める方法は?」など実際の授業を行う上での質問や「体育の評価について、どうしても実技重視で考えてしまう傾向をどのように変えていけばいいのか?」など長崎県において、今話題となっていることについて、参加者の皆さんから貴重な意見をいただきました。

その後、佐藤代表より大学の授業からの、現在の体育指導に関する様々なツールの紹介をいただきました。実際に大学生が授業計画を立てて授業を行う時に起こりやすい失敗例の話を通して、参加者の質問に対して、良い指針を与えてくれました。



3 その他

今回の研修会は、福岡教育大学本多先生の通訳が一番重要でした。体育の専門的な英語も、分かりやすく日本語で伝えていただき、とっても分かりやすかったです。本当にありがとうございました。また、参加者のみなさんより多くの意見をいただき、盛況に会を終了することができました。ありがとうございました。来年も長崎ちゃんぽんラウンドへの参加をよろしくお願います。



【今後の開催ラウンド】

1/31 : 広島ミニもみじまんじゅうラウンド

2/ 7 : 沖縄シーサーラウンド

2/21 : ファイナルラウンド(アクション福岡)

3/16~18 : 韓国ソウルラウンドも予定しています。

※詳しくはHPで確認してください。

<http://kyushunt.com/sns/pages/katudou/k-keikaku.php>

○ オーストラリアの健康教育の現在

オーストラリアでは、日本のように国が教育課程を決めてはならず、州によって教育システムが異なっており、10年間の義務教育段階(初等6年・中等4年)と大学進学者は後期中等教育(2年間)の教育機会がある。学校には、多くの人種の生徒が在籍しており、宗教や文化、考え方の違い等、多様な生徒に対して教育をしている所が日本との違いである。

また、各学年(2年毎)でテストを行い、それによって生徒がランク付けされ、進学などもそのランクが大きく影響するという。テストをする科目は州ごとに決められており、保健体育のテストを実施している州は少なく、クィーンズランド

では実施しているが、ペーパーテストだけでは、その子供の習熟度を測ることができないので問題であるということであった。

オーストラリアとして、テストを実施しているが、その運用に関しては、州に任されており共通性が保てないことは大きな問題である。この多様化に対していかに共通性を持たせた教育をするのかについては、日本と同様の課題を持っていると感じました。



次に、オーストラリアの行政側が考えている教育システムと学校現場が実際に行っている教育についての話があり、上手くシステムが実行されていない場面も多いことに触れ、参加者を二つに分け、文部科学省の立場の考え方と現場の立場の考え方について意見交換を行いました。その中で、違う立場で物事を考えることの重要性和良い方向に向けるための改善策をみなで考えていくことが大切であるということ学びました。



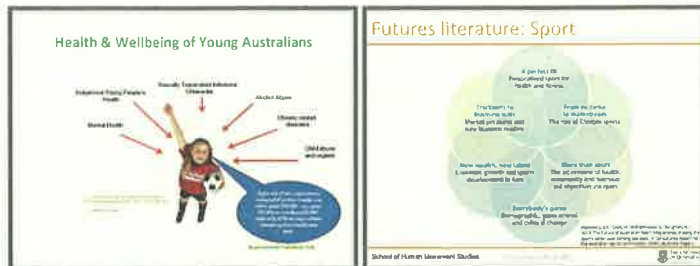
休憩後、オーストラリアのHPE(保健体育)カリキュラムについての話をいただきました。多様な子供たちに健康教育をするには、まず、いろんな見方(考え方)があることを教師がしっかりと認識することが大事です。

右の絵が“若い女性の後姿”に見える人もいれば、“おばあさん”に見える人もいます。人によって見え方が違うように考え方も違うので、それをどのように調整して教育していく



のが、大切になっているということでした。

オーストラリアのHPEプログラムで子供たちに身に付けさせる内容は、健康・スポーツ・態度の育成であり、身につけさせる方法について、新しいプログラムを使って教育している。その方法とは、知識を身に付けさせるために知識を教え込むのではなく、いろんな経験をさせたり、いろんな考え方を引き出したりすることで課題解決を図り、結果としてよい知識を身につけるように指導する方法です。



また、新しいプログラムでは、次の5つを（“Educative”・”Strengths-based”・”Health literacy”・”Critical inquiry”・”Movement”）重要なキーワードとしています。

その中で、”Strengths-based”の説明を取り上げ、先生の子供たちへのアプローチの仕方を工夫することを重点的に話していただきました。それは、子供たちに「なぜ、病気になる？」と問いをかけるのではなく、「どうしたら健康になる？」という風にポジティブな意見ができるような問いのかけ方をすること。子供たちからポジティブな意見

ができるような先生の介入の仕方を工夫することが重要であるということでした。こういった授業を展開するためには、先生の準備が大切であり、教えたいという欲求を我慢し、子供たちから引き出すことが大切になります。知識を教えるのは簡単ですが、教えるだけでは、その知識を使うことができない。課題解決する力をつけるには、持っている知識を使って考えたり、いろんな体験をすることによって、その力をつけることができる。現在の日本の学習指導要領で考えられている「実践力」の育成を世界でも考えられているんだなと感じました。今からもっともっと世界は多様化していきます。その中で『生きる力』を身につけるために、今子供たちに何を身につけさせないといけないのかを身にしみて感じました。



“HPE curriculum reform is a contact sport ! ”

最後に、保健体育のカリキュラムを改革するという事は、非常に難しく、頭の中で考えるだけでは実現できません。実現に向かって動くことが最も大切です。ということをも日本の相撲の写真を使って、説明してくれました。一人一人がいろんな問題に立ち向かうことで、その経験から新しい何かが生まれると思います。まずは行動すること、「ポジティブに行動していこう！！」と本気で思いました。ルイズ博士の話聞いて元気になりました。本当にありがとうございました。



○ 意見交換

参加者の悩んでいることや疑問に思っていることについて、全員で協議しました。

協議した内容は以下です。

最新の情報

- 海外の健康教育の現状について
- 21世紀型能力と教員の実践的指導力について
- 単元構想図の考え方(いつ何をどのように指導し計画するか)がずいぶん広まって来たように思います。関連して(その他でも)、全国的には大きな流れや考え方はどんなものがありますか？

思考・判断の授業について

- 思考判断の授業作りについて

評価について

- 態度や技能の指導時期と評価時期をずらすことに関して、もう少し詳しく押さえてみたい。
- 2クラス分の人数を観察によって評価するとき、どのような視点で観察していけばよいのか。一人ひとりを見ていくと時間が足りない。できない生徒の補助を優先させたいほうがいいのではないかな。などの疑問点がある。
- 体育の評価について(どうしても実技重視になりがちです)
- 評価規準に関する教科内のすり合わせが非常に難しく感じる。皆様はどのように工夫されているか伺いたいと思っています。また、授業中の評価メモや、評価の材料となるものはどのように作成され、活用しているか伺いたいと思っています。

その他

- 体育授業と学級経営について(その効果をどうすれば先生方に伝えていけるか)
- 球技の指導法(ゲーム前の練習パターン)
- 柔道、器械運動の最速履修時期
- 体育理論への関心を高める方法
- 1年男女21名、バスケボール部がなく経験もほとんどない。運動苦手な女子もいる集団ですが、楽しさや成功体験を多く味わえるような簡易ゲームや練習法を紹介してください。
- 授業日数、授業時数が余裕がなく、行事の精選をよぎなくされています。その上、1学期には体育大会、中総体への準備・取り組みの時間さえも不足している状態です。この状態で、新体力テストをどう実施すればスムーズにいくか、各学校の取り組みを教えてください。

協議を通して、参加者よりいろいろな経験談やアイデア、新しい疑問が飛び出し、有意義な研修となりました。

最後に佐藤代表より、今回の総括をしていただきました。

ルーズ博士の話でもあったように、これからの日本は多様化・国際化が進んでいくので、保健体育としてどんな力を子供たちにつけていけるのかが、今後の保健体育の教科としての価値を問われる重要な分岐点にいるということ。そこを考えると、体育が技能のみを教える教科となってしまうと、これからの社会に対応している教科とはいえないのではないかな?今の学習指導要領でも保健体育としては他の教科よりもそこを考えて作られているが、それを実際に授業に落とし込むために教材化することを、これから考えていかなければならない。また、

○多様性・国際化

○技能以外の教材化
(技能中心)

○要領と学校をつなぐ

(共通性) 要領 (学校) (地域) 条件
大綱性 教員経験 資源

○目標・準拠・評価と相対評価

学習指導要領を理解している教育委員会が学校の実態に応じて、上手く運用する力をつけなければいけない。そのた



めには、国、県、学校が連携して保健体育の発展のためにスクラムを組んで、実行していくことが重要になる。

評価に関しても、今の高校の現状では、これからの社会を考えると、時代にマッチしていないことが多いので、保健体育だけでなく、全ての教科と連携しながら変えていく必要がある。とまとめていただきました。

その他にも、現在、鹿屋体育大学で行っている授業をから、大学の教員養成の単元計画や大学生が実際に作った単元計画や指導案を紹介していただきました。長崎の先生方にも大変参考になる資料でした。(詳しい資料はHPにアップされると思います)

○ 情報交換会

研修会だけでは話ができなかったことについて、この情報交換会でゆっくりと話すことができました。(それでも時間が足りようでしたが...)

ルーズ博士とも英語で会話しようと多くの参加者たちが話しかけていました。英語で会話する機会はなかなか無いので無理やりの英語を使う参加者もいましたが、それなりに会話も成立していたみたいです。

その後、ルーズ博士には長崎観光もしてもらい、長崎をもっと好きになってもらいました。来年も来崎してもらうことを期待しております。

また、参加者の皆様も来年は、友だちを連れて参加してもらえればと思っています。来年も長崎でお待ちしております。どうもありがとうございました。



本多先生、通訳
ありがとうございました。



Side rope Son です。



Louise & Ryoma



稻佐山夜景(世界三大夜景)にて



眼鏡橋にて